

上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）

1 基本的な考え方

本市における人口減少は喫緊の課題であり、平成26年3月に策定した第2次総合計画では、まちづくりの基本目標として、子ども、若者、お年寄りが住みよい「活力」、「誇り」、「安心」に満ちたまちの実現を掲げ取り組んできた。

地方創生を実現するために「上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、第2次総合計画に掲げる施策を更に深化・拡充し、各種の個別計画と整合を図りながら分野横断的に取り組んでいく。

2 基本目標

「まち・ひと・しごと創生」が目指す、人口減少克服又は地方創生を併せて行うことにより将来にわたり活力ある社会を維持するため、次の4つの基本目標を設定する。

【基本目標1】

安定した魅力ある雇用を創出する

【基本目標2】

上天草市への人の流れをつくる

【基本目標3】

市民の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【基本目標4】

時代に合った地域をつくり、安心して快適な暮らしを創出する

※基本目標ごとに5年後の「重要業績評価指標（KPI）」を設定します。（検討中）

3 取組の方向と実現に向けた施策

※具体的な施策ごとに「重要業績評価指標（KPI）」を設定します。（検討中）

（1）上天草への誘客の促進（上天草市に来てもらう）

- 自家用自動車以外の手段を用いた上天草への訪問の促進及び対外PR
→観光船、観光バスの活用。SNS等も活用。
- 三角駅から上天草市までのJRの延伸

○無人島めぐりと無人島への出店

○滞在型観光漁園

- ・海版トレッキングコース「島渡り」
- ・勉強合宿（海を歩くことで体を鍛える）
- ・船で巡る世界遺産

○農林漁業の体験

→生産現場を見てもらうことで田舎暮らしに好感を持ってもらうとともに、一定期間の滞在を通じて移住の意識付けにつなげる（空き家も活用）。

○スローライフお試しタウン

→空き家をリフォームし、短期で借りられるようにする。その家をベースに付近の農地も借りて、農業や魚釣りをしてのんびりすごすスローライフ体験ができるエリアを作る。

（効果）

- ・消費人口が増える
- ・農業後継者が生まれる
- ・漁業後継者が生まれる

○食、自然（アクティビティ、マリンレジャー等）と空き家を組み合わせた長期滞在型プログラムの開発

→空き家に低料金で宿泊する、飲食店の割引制度を導入する等

○冬場（ローシーズン）や夜の魅力づくり（ライトアップ等）

○ハンティング特区

→猪の獣害の増加及び外国人客の増加という現状を踏まえ、猪の駆除を兼ねた外国人客向けハンティング特区を設ける。併せて、ジビエ料理を提供する。

○ヒーリングビジネス

- ・イルカ、夕陽、温泉など和める要素が多い。
- ・心の病の人が増加。
- ・ターゲット：企業、大学、官公庁に勤めている心に病を持つ人
- ・場所：旅館、ホテル、空家
- ・実施者：観光事業者＋心理学者＋哲学者＋学生
- ・協力：関係省庁、上天草市役所、観光協会、大学、研究機関、保険会社
- ・メリット：あるものを活かして、人がハッピーになれる。供給カリキュラム、プログラムが確立すれば、長期滞在型観光、2拠点居住のベース化、モデル化（CCRC）、人材の誘致、企業の誘致、起業誘発につながる。また、安心できる和みの市づくりで、観光、教育、子育て、働く場の創出につながる可能性が高いモデルとなる。

○離島環境を活かした自然と溶け合う屋外現代アート展

（参考：うるま市・伊計島の「イチハナリアート」）

○新鮮な魚が食べられる魚市場の開催

(参考：下関市の唐戸市場)

○伝承スポット巡り

→〇〇〇の神様やパワースポットなど、上天草の地域に根差した伝承等を発掘し、マップ化する。

○住民参加型の屋外アクティビティ情報を集約する仕組み

→情報通信技術を活用し、住民がスマートフォンからも wiki のように編集・閲覧が可能な形で屋外アクティビティ情報を集約し、アウトドアライフ、アクティビティの可能性を伸ばす。

(2) 移住・定住の促進（上天草市に住んでもらう）

○外国人の移住促進

→空き家を活用して、外国語教育等を行う現代の寺子屋を設置

○第2子以降の保育料や給食費の減額、無料化

○地元小中学生を対象とした起業セミナー

→上天草とはどのような地域なのかということと、地場産業は稼ぐことができるものと子ども達に知ってもらう

○一次産業の実践的訓練が可能な場の設置

→農林漁業に縁がなかった方でも移住・定住の垣根を低くする。

○農林漁業の体験 ※（1）から再掲

○スローライフお試しタウン ※（1）から再掲

(3) 就業の機会の創出（上天草市で働いてもらう）

○中国人観光客をターゲットとした販売

○渋滞ビジネス

・地元の美味しいものを活かして、渋滞中に自動車で食べられるものを移動販売する。
・渋滞が発生する道路近辺での宿泊を促進する。渋滞で疲れることもなく、渋滞自体の解消にもつながる。

○観光地で地元の美味しいものを提供する移動販売

→上天草の観光地は眺めるだけの場所が多いため、ただ眺めるだけでなく、併せて地元の美味しいものを食べていただく。

○直営店の設置

→食材の価格、品質を求めている出荷先を開拓する。

○上天草産食材の对外情報発信

→天草の食材は一部で人気があるものの、食材の良さに関してあまり知られていない

ため、都会の飲食店に向けて上天草の食材の良さを画像等で伝える。

○天草五橋にちなんだ漬物（発酵食品）の開発及び販売

→農家の高齢化、廃校の増加及び新一号橋の開通といった状況を踏まえ、廃校施設で天草五橋の色や形といった特徴を模した発酵食品の開発・製造を行い、販売する。また、廃校施設を活用して高齢者の漬物教室を併せて開催する（高齢者が持つ知識の継承）。

○海運事業に従事する船員の養成

→上天草の地元海運事業者へ就職する場合、専門知識を習得する学校へ通う学費を補助する。

○起業・創業を促す補助金制度の創設

○さんぱーる等を活用した飲食店と農林漁業生産者の仲介

→飲食店側の発注（需要）、生産者側の納品（供給）を一元的に管理することで、飲食店は地元の美味しい生産物を使用した料理を提供することが可能になるとともに、生産者側は過剰生産による廃棄等を抑制することができる。

○土地基盤整備を行うことで農業者を増加

○農林漁業の体験 ※（1）から再掲

○スローライフお試しタウン ※1から再掲

○ハンティング特区 ※（1）から再掲

○ヒーリングビジネス ※（1）から再掲

○新鮮な魚が食べられる魚市場の開催 ※（1）から再掲